

「 守破離～卒業式編③～」

校長 江 口 満

【前号からの続き】7月、本校でも「あたりまえ」の「日常」を取り戻しつつあった。中体連夏季大会やコンクールが「あたりまえ」に行われた。私たちは、コロナ禍のあの三年間があったからこそ、私たちは「あたりまえ」のありがたさを痛感できることを知った。そして「あたりまえ」の夏休みに感謝しつつ、思いっきりチャレンジする。今年こそ、そんな夏休みにしようと決意した。

私もカメラを片手にできるだけ大会やコンクールの取材に出かけた。全国箏曲コンクール、箏曲部「金賞」。創部20年目の集大成として最もふさわしい「連覇」を成し遂げた。しかし日程が重なりすべての部活の取材が叶わなかった。この夏ほど自分の身体が二つあったらと思ったことはない。

夏休みが明け、猛暑の二学期が始まった。9月、中間考査を終え、体育祭練習開始。各ブロックの結団式では三年生を中心に初日からヒートアップした。ぶっつけ本番の予行練習。練習不足が心配されたが、雨や台風を全く心配しないで体育祭当日を迎えることができるのは何年ぶりのことであった。

体育祭当日、秋晴れの絶好の体育祭日和。各ブロックカラーに染まった先生方の身体からも、ただならぬ熱気が立ち上がっていた。

体育祭の閉会式。生徒たちの達成感あふれる顔を見た。まさに教職の醍醐味である。生徒は日々成長する。その成長する一瞬に出逢い、成長の過程を共有できることは教職に就いた一番の喜びであり、それが蓄積されて教員の財産になる。コロナ禍の中、有観客にこだわって行った昨年の体育祭の伝統を受け継いだ皆さんは、ブロック応援がはじけ、大きく羽ばたいた。体育祭当日、我々はその巣立ちの瞬間を目撃した。(裏へ)

【左上】3月8日(金)卒業式当日、NHK・TNC・J:COM・読売新聞の取材を受けました。式後、報道のインタビューを受ける卒業生の皆さん

【下・裏】卒業生のお見送りの様子





10月の文化祭は、創立49年目、集大成の今年、全学年とも学年合唱に挑戦するという大転換期だった。コロナ禍の三年間、学校から歌声が消えた。マスクを外して合唱する経験はない。卒業式などの儀式では、心を込めて、頭の中で、黙って歌った。この機を逃せば、本格的な合唱曲に挑戦する経験がないまま卒業してしまう。

本年度、新学期が始まり、日々、学年合唱が成立するのかH先生と心配した。しかし体育祭で、各ブロックを引っ張り、はじめて応援する皆さんの姿を見て、この一か月間で合唱が変わると確信した。

文化祭当日。学年合唱が始まった。「Yes!」と可愛い歌声が今でも心に残る一年合唱。自信をもって歌う姿と美しいハーモニーの二年生。そして三年生。私は「さすが三年生!」と総括した。来年の創立五十周年記念文化祭の礎ができた瞬間だった。私たちはこの日、「守・破・離」という時代の目撃者となった。



またこの三年間、「学びチャレンジリーディングスクール事業」研究発表会での数々の授業公開。12月、寺田智輝氏講演会「知ることは愛の始まり」。そして三年の先生方の徹底した進路指導で、今皆さんは、また一つの壁を超えようとしている。

卒業式当日、卒業生の皆さんは、ピッカピカのジャガイモに見えました。そして私たちは、卒業生の皆さんの「成長」を、学校の「守破離の伝統」を、「時代をこえて」語り継ぐことになります。勇気をもって挑戦を続けた皆さんの姿に憧れた在校生は、皆さんを目標に、この伝統を受け継ごうとしています。卒業生の皆さんの活躍に、心からお礼を言います。有り難う。

卒業生の皆さんが残してくれた「守破離」の伝統を、在校生と職員が受け継ぎ、新たな「感動」を求めて、令和6年度に向け、その第一歩を踏み出そうと思います。

